

三中校長だより 保護者地域の皆さんへ
令和6年度 第12号 R7.2.26 (水)



藤井寺市立第三中学校
校長 奥 雅 美

「1年生世界遺産学習発表会」

1月31日(金)に1年生は、これまでの世界遺産学習のまとめとして、北海道千歳第二小学校の6年生とオンライン交流しました。そこに藤井寺西小学校の5年生も参加しました。千歳の小学生は縄文時代の集団墓であるキウス周堤墓群という世界遺産について、実際に模型を作るなどして研究していました。本校は代議員会の代表が百舌鳥古市古墳群のプレゼンを行い、古墳だけではなく、藤井寺の魅力を語っていました。筑波大学の黒田先生にコーディネートいただき、大変有意義な会になりました。

「2年生合唱コンクール」

2月14日(金)の午後、2年生の合唱コンクールが開催されました。課題曲は「変わらないもの」。どのクラスもよく声が出ており、体育館中に素晴らしい歌声が響き渡り、ものすごいエネルギーを感じました。

11月から実行委員会を立ち上げ、曲決めから、各クラスの練習、当日の運営まで生徒主体でよく頑張りました。思春期真ただ中に、これだけ声を出せるということは、素晴らしい集団ができていくということです。また、どのクラスにもメンバーを引っ張るリーダーが育っているということです。彼らもあと1か月もすると最上級生。このパワーを一つの方向に揃え、三中を引っ張って行ってほしいと思います。

応援に来て、司会の無茶ぶりにコメントくださったり、一緒に「糸」を歌ってくださった保護者の皆さま、ご協力ありがとうございました。

「玄関ホール」

玄関ホールでは2月に入り、三年生の私立入試にむけて、2年生から激励のメッセージが貼られました。「最後の追い込み頑張ってください」「3年間頑張ってください!」や、名指しのもの、格言などたくさんの思いが綴られています。また、中庭側のホワイトボードには3年生から友達や家族、先生に向けての感謝の言葉が桜の花びらとして掲示されています。それらを様々な生徒がじっくり読んでいます。とてもうれしい光景です。

「アクティブリコール」

脳科学の研究では「同じように勉強しているようでも実は脳に残る学習法がある」というのです。それが「アクティブリコール」です。一度覚えたことを、能動的に思い出すことによって脳に定着させる手法です。これはアメリカの医師が研究している科学的根拠のある方法です。

例えば

- ① 授業が終わった後で、「真っ白の紙にヒントなしで、思い出しながら授業内容を書き出す。」
- ② 授業中でもただ黒板の板書をノートに写すという作業を、「見ては書き、見ては書き」というのではなく、「じっくり見て頭に入れてから、再度黒板を見ずにノートに書く。」
- ③ 授業の内容を「友達と話したり、自分が分かったことを誰かに教えたりする。」

これらが記憶の定着を促進するというのです。また、この方法は子どもだけではなく、これから新しいことを学ぶ大人にも効果があります。

本校は授業での「学び合い」を通して生徒たちの学力を向上させたいと考えています。